



ポストコロニアル文学 について調べる



★ 関連キーワード

- ポストコロニアル理論
- ポストコロニアリズム
- 脱植民地主義
- 植民地文学

「Paste (はすて)」とは？

ぱっと分かって、すっと頭に入る、テーマ別調べ方ガイドです。みなさんの学習をサポートする、総合図書館ラーニング・サポーター（LS）による作成です。レポート作成の際などにお役立てください

1. イントロダクション

1-1. 「ポストコロニアル文学」とは？

「ポストコロニアル文学」とは、「ポストコロニアル理論」により分析が可能な文学作品、および「ポストコロニアル理論」により文学作品を分析・批評をする研究分野です。研究対象となる文学作品には、作者が「ポストコロニアリズム(脱植民地主義)」の立場から書いていたり、意識的に「ポストコロニアル理論」や関連テーマを作品内で提示していたりするものと、作者の意図は別としてこれらの要素が読み取れるものがあります。

「ポストコロニアル文学」を学ぶには、「ポストコロニアリズム」や「ポストコロニアル理論」を理解する必要があります。「ポストコロニアリズム」は西洋を中心にした帝国主義・植民地主義時代の反省として、1980年代に提唱された思想です。「ポストコロニアル(Postcolonial)」は、字義的には「植民地時代(Colonial)の後(Post)」を指しますが、「ポストコロニアリズム(Postcolonialism)」は「脱植民地主義」とも呼ばれます。脱植民地主義は、先述のように、西洋による植民地支配(帝国主義・植民地主義)を批判的に検討する態度、また、被植民地だったアジア・アフリカ諸国の独立の動きを受けて「植民地状態からの脱却」や「植民地状態は終わった」という意味が込められた用語です。ポストコロニアリズムでは、植民地主義が支配者及び被支配地にもたらした社会的・言説的(=ある社会に浸透する通念・概念が人々に及ぼす)影響や、独立以降の旧植民地に見られる文化的・社会的変容、さらには現代において植民地—被植民地と似た構造を持つ現象を考察の対象とします。

ポストコロニアリズムが提唱された前後から、人種、ジェンダー、階級といった観点から、植民地主義・帝国主義に対する被植民地側の抵抗を示し、植民地主義以後新たに生み出された個人・国家レベルでの主体的アイデンティティを分析することで各々の理論を確立する批評家が現れました。彼らが提唱した個々の理論を総称して「ポストコロニアル理論」と呼びます。例えば、知っておくべき批評家としてエドワード・サイード(Edward Said)があげられます。サイードは『オリエンタリズム』(*Orientalism*, 1978年)で、「東洋とは西洋がアイデンティティを確立するための植民地主義の効果/産物として構築されたものである」と述べ、植民地/被植民地における権力や文化の関係を暴きだしました。

ポストコロニアル文学研究では、小説や劇、詩、映画のなかの描写を手がかりにして、ポストコロニアル理論をもとに植民地時代の歴史的事実や思想(イデオロギー)を明らかにしていきます。研究対象となる作品で代表的なものとしては、西洋の植民地主義を描いたイギリスの小説家ジョセフ・コンラッドの『闇の奥』(*Heart of Darkness*, 1902年)や、南アフリカ出身のJ・M・クツウェーが西洋中心主義の転覆と白人の屈辱を描いた『恥辱』(*Disgrace*, 1999年)などがあげられます。この他にも国や人種を越えて数多くのポストコロニアル文学作品が発表されています。

1-2. 学習するにあたってのポイント

難解な理論書をいきなり最初に読み始めるのはあまりおすすめしません。日本語で書かれたものでも構いませんので、まずは入門書やキーワード用語集で批評家・理論家が主張している重要なポイントをおさえておくことが大事です。

また、ポストコロニアル文学では単純に西洋と東洋を区別して研究するのではなく、複数の観点から対象を分析するため、国や人種ごとにステレオタイプを持たないことが重要です。ステレオタイプ的なものの見方では、複雑な構造を捉え損ねてしまう恐れがあります。この姿勢は、様々な生まれや思想を持つ作家や批評家の

展開する理論や作品を理解するときにも必要となってきます。

1-3. 一般向けに書かれた資料・読み物

■ 文学理論講義：新しいスタンダード / ピーター・バリー著

ポストコロニアル理論を非常に分かりやすく解説しているだけでなく、例となる作品も挙げています。クイズ(“Stop & Think”)も設けてあり入門書として適しています。ポストコロニアル理論は独立して成り立っているのではなく、文学作品を読解するうえでの他の理論(ジェンダー、人種、精神分析、物語論、文体論など)と密接に関係しているのです。様々な理論を紹介する本書を読めば、広い視野で見たときのポストコロニアル理論の位置付けが分かります。

【書誌 ID=2004331675】総合図 A 棟 3 階/4 階 学習用図書 901/BAR

■ ポストコロニアリズム / ロバート・J・C・ヤング [著]; 本橋哲也訳

エドワード・サイードが唱えた理論「オリエンタリズム」を丁寧にとまとめている点でおすすです(序章と第 4 章「西洋」と「東洋」)。その他にもポストコロニアリズムの代表的な理論家・批評家たちが提唱した理論や用語について、細かく解説されています。

【書誌 ID=2003645480】外国図-3 階開架 361.6/438

■ 批評理論入門：『フランケンシュタイン』解剖講義 / 廣野由美子著

イギリスの小説家メアリー・シェリーの『フランケンシュタイン』(1818 年)を題材に、小説の技巧や批評理論を紹介している本です。引用された本文と照らし合わせながら論点を確認できる形式になっています。ポストコロニアル文学としての観点からは、「ポストコロニアル批評」の項目で、時代背景や特定の場面に着目しながら、この作品にみられるポストコロニアリズムが解説されています。あらすじがところどころに挿入されているので、作品を読んだことがない人にも小説の概要と理論との関係が把握しやすいです。また、ポストコロニアル文学以外の視点での『フランケンシュタイン』の読みとき方を合わせて確認することができるので、ポストコロニアリズムの位置付けや文学テキストとの関係が学べるおすすの本です。

【書誌 ID=2003640816】総合図-A 棟 3 階 文庫・新書 089/GS/1790

2. 学習用資料

2-1. 事典・ハンドブック 類

■ 現代思想芸術事典 / アンドリュー・エドガー, ピーター・セジウィック編; 富山太佳夫訳者代表

ポストコロニアリズムに関連する思想や理論の基本的な解説が収録されています。その他にも、この文献ではポストコロニアリズムを学ぶうえで必要となる可能性の高い、ジェンダーや人種、芸術といったほかの分野に関連する用語・人物の解説も網羅されています。

【書誌 ID=2003561684】総合図-A 棟 3/4 階 学習用図書 118/EDG

- **ポストコロニアル事典 / ビル・アッシュクロフト, ガレス・グリフィス, ヘレン・ティフィン著 ; 木村公一編訳**

ポストコロニアルの重要なキーワードを丁寧に解説している事典です。文学作品や歴史的事実もいれながらキーワードを説明しています。関連性のある、あるいは類似したキーワードも各項目に載せてあるので学習にも最適です。

【書誌 ID=2004083264】総合図-A 棟 3/4 階 学習用図書 334.5/ASH

- **現代批評理論のすべて / 大橋洋一編**

ポストコロニアル文学を研究する上で欠かせない、現代批評理論がまとめられた本です。テーマ編・人名編・用語編の3部に分かれていて、それぞれ重要な項目がカバーされています。参考資料の案内が充実しているので、さらに詳しく勉強したい場合にも役立ちます。

【書誌 ID=2003705053】総合図 A 棟 3 階/4 階 学習用図書 901.01/OHA

2-2. 最初に読むべき資料：教科書・古典

- **英語文学の越境 : ポストコロニアル/カルチュラル・スタディーズの視点から / 木村茂雄, 山田雄三編著**

ポストコロニアル文学の作品というと、イギリス文学をイメージすることが多いかもしれませんが。しかしながら、ポストコロニアルの理論家や作家には様々なバックグラウンドを持つ者が多く、分析対象となる、あるいは舞台となる国や地域は様々です。この文献では、イギリスだけでなくインド・アメリカ・カリブ・アフリカなど、国境を越えて存在するポストコロニアル文学作品について、ポストコロニアル理論と文学の専門家が解説しています。

【書誌 ID=2004167264】総合図 3 階/4 階 学習用図書 930.4/KIM

- **オリエンタリズム / E.W.サイード著 ; 今沢紀子訳**

ポストコロニアリズムを学習するにあたって理解しておかなければならない「オリエンタリズム」の本家本元の解説書です。西洋が表象する東洋を暴き出し、構築されたものとしての東洋の文化、アイデンティティ、社会を分析しています。紹介した『英語文学の越境—ポストコロニアル/カルチュラル・スタディーズの視点から』やロバート・J・C・ヤングの『ポストコロニアリズム』にも「オリエンタリズム」の概要は解説されていますが、まずは翻訳版で原書にも挑戦してみてください。

【書誌 ID=2003562637】総合図 A 棟 3 階/4 階 学習用図書 220/SAI/1

- **文化の場所 : ポストコロニアリズムの位相 / ホミ・K. バーバ [著]; 本橋哲也 [ほか] 訳**

バーバは、サイードに並ぶ重要なポストコロニアル理論家です。この著書ではおもに現在・過去・未来の文化形成や文化の「翻訳」(=「書き換え」や「変換」。ポストコロニアリズムでは非常に重要なトピック)に着目しています。また、精神分析的なアプローチを取りながら、人種の「ハイブリディティ(異種混交性)」や、植民者にとって体制転覆の「不安」要素となる「ミムクリ(擬態)」の概念(被植民地側による物真似・模倣)を提唱しています。この2つの概念は非常に難しい概念とされているのですが、どちらも支配/被支配、植民地/被植民地という二項対立的な構造を崩す役割を果たしています。

【書誌 ID=2004374835】総合図 A 棟 3 階/4 階 学習用図書 361.5/BHA

■ オリエンタリズムとジェンダー：「蝶々夫人」の系譜 / 小川さくえ著

ポストコロニアル理論をジェンダー論(おもに女性)の視座から分析している視野の広がる著書です。プッチーニのオペラで有名な『蝶々夫人』(+書き換えられた複数の『蝶々夫人』)や戯曲の『M・バタフライ』、『お菊さん』を取扱いながら、西洋が東洋の女性像として作りあげた従順な女性、西欧人から「異様」であると認識されることで「享楽」の対象となる女性、そして西洋人が抱く幻想を壊す役目を果たす女性(とくに日本人女性)について分析しています。

【書誌 ID=2004039954】 総合図 A 棟 3 階/4 階 学習用図書 902.09/OGA

■ 女性・ネイティヴ・他者：ポストコロニアリズムとフェミニズム / トリン.T.ミンハ著；竹村和子訳

小説を書いたり、歴史を記録したりするときに、女性たちの「声」はいかにして残すことができるのか。そのような弱者/「他者」としての女性たちが経験する障壁や閉塞感を発話言語・テキスト・文化(的な風習)から引き出して分析しています。特に、西側ブロック(資本主義)と東側ブロック(共産主義)のそのどちらにも属さないアフリカ・アジア・南アメリカの「第三世界」と呼ばれる領域に属する女性たちに焦点をおいて、彼女たちの主体的な「語り」に着目しています。

【書誌 ID=10300399614】 総合図 A 棟 3/4 階 学習用図書 367.2/TRI

2-3. 最新情報が確認できる資料：主要雑誌・年鑑・Web ページ

■ ProQuest プラットフォーム (<https://search.proquest.com/>)

ProQuest Research Library、New York Times などの電子データベースを統合検索できるサイトです。最新の英語論文や記事、書評などが検索できます。検索結果が多い場合は電子データベースを限定し、絞って検索することもできます。学内ネットワークから、もしくは大阪大学附属図書館の「キャンパス外から電子リソースを使う」のページを経由すると利用可能です。

3. レポート・論文執筆用資料

3-1. レポート・論文の書き方、学び方、引用・参考文献の書き方

■ 小説の読み方/論文の書き方 / 野間正二著

文学作品の内容を紹介しながら、読み方のポイントやテーマの見つけ方(=謎の見つけ方/解き方)を説明しつつ、論文を書くにあたっての注意事項などを分かりやすく解説しています。とくに英米文学の小説に関する課題やレポートが出された場合に参考になります。

【書誌 ID=2004211986】 総合図 A 棟 3 階/4 階 学習用図書 901.3/NOM

本文中で紹介している図書・雑誌について

図書名・雑誌名の後ろに「書誌 ID」(10桁の数字)の記載があるものは大阪大学で所蔵しています。この10桁の数字で大阪大学 OPAC(蔵書検索システム)が検索できます。

テーマ別調べ方ガイド

